



創立10周年記念行事のご案内

創立10周年を記念し、次のような慶祝行事を催します。
ぜひご出席賜りたくご案内申し上げます。

記

一、期日 平成11年11月3日(文化の日)

一、神前報告祭

午前9時～9時30分

- 昇殿参拝 ●「浦安の舞」奉納(舞姫＝根本寿美子・斎藤真心子)
- 記念写真撮影

一、献木式添釜

午前9時30分～11時30分

- 「金木屋」植樹後、境内にて大日本茶道協会のみなさんの奉仕により添釜(野点)
- 似顔絵コーナー(抽選で20名) 日本美術家連盟・示現会会員＝後藤利夫画伯

一、祝賀会(社務所大広間・六郷ばやし演奏)

午前11時30分～午後1時30分

●会費 8000円 (当日受付でお納めください)

※なお同封のはがきにて出欠のご返信を、10月10日(必着)までお願い申し上げます。

●平成元年11月3日設立総会。会長に森田賢治氏を選出 ●12月20日会報第1号発行。

●2年1月3日会員とその家族の新春昇殿参拝(恒例となる) ●2

月1日第1回ついたち

早朝まいり・短い

講話(定例) 本年

9月1日で107回を数

える) ●5月25日

大型テレビを社務

所に寄進 ●10月9

日石清水八幡

宮ほか数社への参

拝旅行 ●11月3日

創立記念日の献木式添

釜(定例) これまでに

紅梅・しだれ梅・しだ

れ桜・もみじ・しだれ

もみじ・花水木・百日

紅を献木) ●12月2日

皇居東御苑の大嘗宮参

観と武蔵野御陵参拝。

10年のあゆみ

●3年8月3日羽田の屋形船に乗り往時の曳船祭をしのぶ会 ●10月6～7日三峯神社・秩父神社参拝旅行。

●4年5月30日脇参道

入口に六郷神社由緒掲

示板を奉納 ●9月10

日宇佐神宮参拝

旅行 ●9月27日六

郷河原野草観察会。

●5年3月20日六

郷ばやし復活の練

習開始 ●9月18日

江戸東京博物館・

ガスの科学館のバ

ス見学会。

●6年1月22～24日第

61回式年遷宮後の伊勢

神宮初詣と明治村見学

の旅 ●11月9日江戸東

京たてもの園のバス見

学会 ●11月27日六郷川

野鳥観察会。

●7年7月23日新社務



創立10周年を迎えて

会長 森田 賢治

本会の創立は平成元年11月3日、地域連帯の核心ともい
べき六郷神社を護持し、六郷の精神文化の涵養を目的として
発足したもので、本年ここに10周年を迎えました。

この10年間を省みると、世情の有為転変や価値観の激し
い変貌の中、神社と崇敬会の融合のもと所期の目的に向かっ
て着実にあゆみを進めることができたのは、創立以来の役員
の並々ならぬ運営のお骨折りと、それをご支持いただいた会
員皆様のご協力の賜と、心より感謝申し上げます。

近時、御社殿・社務所をはじめ境内の修築整備も終わり、
近郷近在にまれな荘厳にして緑豊かな神域が造営されました
ことは、われわれ崇敬会にとって敬神と親近の念ひとしおな
ものがあり、宮司はじめ関係者各位のご尽力に深く敬意を表
するものであります。

時あたかも21世紀の幕開けも近く、わが国固有の伝統が新
しい時代に生かされ根付くように、今後いっそうのご協力を
切望してやみません。

神楽殿、西側に移転

昭和62年10月16日竣工の神楽殿
は、御社殿に近接しすぎているた
め、西側の庭園へと移転しました。
工事の完成は10月中旬の予定。な
お床下には収納庫ができ、跡地は
舗装されて、境内がいっそう広々
として感じになります。



- 所竣工祭・祝賀披露宴
- 11月3日終戦50周年
六郷地区戦没殉難者慰
霊祭（遺族会共催）。
- 8年5月5日大師駅
前の木村和治郎氏によ
る六郷ばやしの出張教
授始まる ● 5月23日武
道館の神社本庁設立50
周年記念式典に列席。
- 9年11月3日文化の
日さわやかパーティー
開催 ● 11月28日六郷神
社獅子舞の護持育成に
努めてきた代田秀雄・
足利幸吉両氏に社団法人
人日本善行会から表彰
状と善行賞が贈られる。
- 10年1月22日産業プ
ラザでの六郷地区新年
顔合わせ会で六郷ばや
し演奏 ● 10月8日筑波
山神社参拝・伊能忠敬
旧宅・記念館見学の日
帰りバス旅行。



盛大だった10年ぶりの神幸祭

6月6日快晴。10年ぶりに渡御する一之神輿の露払いとして、初めて崇敬会育成の六郷ばやしの屋台が、にぎやかに先行、少年少女の神獅子舞も元氣よく巡行し、盛んな拍手を浴びた。



↑一之神輿の渡御 (スケッチ・後藤利夫画伯)



↑騎乗の鈴木弥宜

→神獅子舞 (仲三神酒所前)



←六郷ばやしの屋台

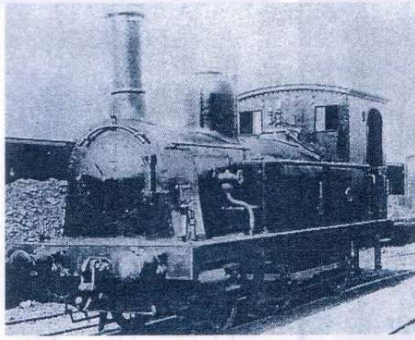
わが国最初の鉄道火災 平野順治

●文明開化のシンボル

わが国最初の鉄道が、新橋（汐留）～横浜（桜木町）間に開業したのは、明治5年（1872）9月12日。それは文明開化のシンボルであった。

航海開けて 道まで開けて 馬車や人力車 まだまだいいのが陸蒸気 トコ世の中よござんしよ

と唄われた陸蒸気（汽車）であったが、新橋～横浜間の片道料金は、上等1円12銭5厘、中等75銭、下等37銭5厘。当時、米1升の値段が約4銭であったか



1号機関車（交通博物館）

ら、下等でもその9倍強、庶民がおいそれと気軽に乗れるものでははかかった。

●明治6年1月27日

ところで大森から六郷までの軌道は水田の中を南北一直線に敷設されたため、最もスピードを上げる区間となっていた。開業から4ヵ月目の明治6年1月27日のことである。その日は西風がことのほか強い日で、横浜発午後3時の汽車が、六郷川の鉄道木橋を渡ると勢いよくカマの中に石炭を投げ込んだから、長い煙突から黒煙といっしょに火の粉が火柱のように吹き上がった。それが強い西風にあおられ、東側に点在する農家の萱葺屋根の上に降りそそいだ。

このため八幡塚村北町（現・仲六郷三丁目21-1）の平野平右衛門の母屋（建坪61坪9合）と、町屋村（現・仲六郷一丁目36-10）の石渡万右衛門（17坪5合）の2軒が丸焼けとなった。続い

て横浜発午後4時の汽車の火の粉により、北蒲田村の吉岡庄五郎（29坪5合）・吉岡孫右衛門（52坪5合）・宮崎角蔵（8坪5合）の3軒と第六天社の社殿が焼失した。

●割高な損害賠償金

困惑した被害者たちは、なんとかしてもらいたい、と東京府に陳情した。東京府では気の毒なことなので賠償金を支給してどうか、と井上勝鉄道頭に進言したが、前代未聞のこととして判断に苦しみ、お雇い外国人に相談したところ、石炭を焚く蒸気車の火の粉はいかなれば雷火や天災のたぐいであるから、損害賠償の必要はない、という回答であった。しかしながら、イギリスから購入した10両の蒸気車のうち、わずか1両のみに火の粉止めの煙突がついているにすぎず、この陳情を不問に付せば将来の鉄道建設に支障が生ずるとして、井上鉄道頭は坪当たり8円50銭というかなり高率の損害賠償金を、被害者に支払うことを決定したのであった。

◆10周年記念記帳所

11月3日の当日、受付に記帳所を設けますので、ご出席の方はぜひご記帳ください。

◆平成12年1月3日・恒例の六郷神社初詣

第1回昇殿参拝 午前10時30分
第2回昇殿参拝 午前11時30分

◆12月発行の会報はありません

例年12月発行の会報を今年は9月に繰り上げて発行（本号）しましたので、次の会報22号は明年5月発行となります。

◆新入会員紹介

仲三・大野国一

◆平成11年度年会費納入のお願い

お手数でも年会費（平成11年4月1日から12年3月31日までの分）未納の方は、なるべく早くお納めください。

発行 六郷神社崇敬会

〒144-0046 大田区東六郷三丁目十八

六郷神社社務所内

電話 〇三-三三三-二八八九

振替 〇〇一九〇六一-三三五三

編集 平野順治